

高等小學書方手本

女子用
第一學年下乙種

K14072
2.22
1下a

K140.72

2.22

1下a



高等小學書方手本

女子用第一學年下乙種

文部省

嘉永。安政。萬延。文。

高乙下

久元。治慶。應明。治。

高乙下

窓掛絨氈。食卓椅。

三

高乙下

子。花瓶置物呼鈴。

六

高乙下

驚き顔に鳴くひぐらしの
聲一しきり止みにし後を

五

高二下

またたく星に夢護らせて
静かに眠る夜の森林。

六

高二下

設備遊覽觀客殊

高一乙下

禽異獸艷麗豪壯

高一乙下

長幼の序を紊るは私人の家に
ありてすら濫りには行ふべきにあ
らず。ましてこれは公方家なり。
若しさることあるは自然天下の

九

高乙下

大事にも立到るべし。如何にもして
竹千代君に將軍家の後を嗣がせ
まゐらせばやと神佛に祈願を
こめてますく思を教養に勞しけり。

高乙下

+

清母上様御遊去の電報をお見返し言に驚
入の先各來數度の書紙にぞはとて直快方
の様様にこれありあは致居り交突給の凶
報にて全く夢かとのみ疑はれを清評様

始め御一統御哀悼の程深くお察し申す
地のより故名思も少からず清看護にも
手後とははれなくと存候何か急に餘病に
てもお死は次第にや返すぐも残念に存す

來都重菱。漢口。漢。

十三

高一乙下

陽。武。昌。江。寧。蘇。州。

十四

高一乙下

古史通。潘翰譜讀。

十五

高一乙下

史餘論。折焚柴記。

十六

高一乙下

歲暮中元度吊粗

十七

高一乙下

品薄謝錢別香奠

十八

高一乙下

株式會社ハ多人數ノ資本ヲ合同スルモノニシテ全クノ
有限責任會社ナリ。其ノ總資本ヲハ少額ニ等分シ
其ノ一ヲ名ツケテ株式トイヒ又略シテ株トモイフ。一
株ノ金額ハ普通五拾圓ヲ下ラス。而シテ其ノ出資

者ヲ稱シテ株主トイフ。會社ハ株主ニ對シテ證書
ヲ附與ス。其ノ證書ハ即チ株券ナリ。株主ハ其ノ株
券ヲ他人ニ譲リ渡スコトヲ得ルガ故ニ株式會社
ノ出資者即チ株主ノ員數ハ常ニ定ゼストイフベシ。

持つ人の心によりて瓦とも
玉ともなまはこがねなりけり。

二十一

高乙下

人知れず思ふ心のよしあしも
照しあくらん天地の神。

二十二

高乙下

人の短を言ふことなかれ。
己の長を説くことなかれ。

人に施しては慎みて言ふ勿れ。
施を受けては憚りて忘る勿れ。

晴精靖鯖。洞桐洞銅。渚楮緒
諸。權勸歡觀。愉諭輸鋤。野厘

量裏賑宸農震。場楊陽腸。綱
鋼剛。城誠盛。俸捧棒。倫論輪。

箱根越す人もあきらし今朝の雪。
宍谷せと刀投出す吹雪かな。

二十七

高乙下

狼の聲掛ふなり雪の暮。
荒熊のかけ散してやまの雪。

高乙下

二十八

鎌田。後藤。波多。聖。

高部。熊谷。冥。片。桐。

奉書紬斜子鹽瀨。
絲織銘撰海氣郡。

內風通縮緬紗鋸。
天鵝絨縐珠羅紗。

御老澁川も氷解け
高倉山も霞むなり。

三十三

高二下

内外の言の痛なく
業ゆるまになりぬらし。

高二下

三十四

作戰計畫包圍兩

翼。豫備。背面。聯絡。

月日の過行くは校の飛ぶよりも
速し。昨日今日種を下し苗を移
せし花卉聖菜の花咲き実を結

ぶもしばしの程ぞ。日々の課業と
共に楽しきは我が学校園なり。
待たるものは秋の日こそ。

K140.72-222
-17a

明治四十五年六月十八日翻刻印刷
明治四十五年八月三日翻刻發行



著作權所有

明治四十五年六月二十一日
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新
右衛門町十六番地

高等小學書方手本女子用第一學年下乙種

定價金參錢

文部

省

川

板香

折熊

大阪市南區難波濱原町千八百八十八番地
大坂書籍株式會社

大阪市南區難波濱原町千八百八十八番地
大坂書籍株式會社

大阪市南區難波濱原町千八百八十八番地
大坂書籍株式會社

大阪市南區難波濱原町千八百八十八番地
大坂書籍株式會社

株式會社
國定教科書共同販賣所

印刷所

翻刻發行
兼印刷者

著者兼
發行者

